

○プロジェクト研究1757-2

研究課題 「茨城県立医療大学の認知度及び魅力を向上させるウェブ 広報の効果の検討」

○研究代表者	人間科学センター教授	佐藤 純
○研究分担者	人間科学センター准教授	萬代 望
(5名)	看護学科准教授	川野 道宏
	理学療法学科准教授	滝澤 恵美
	医科学センター准教授	角 友起
	放射線技術科学科助教	中島 修一

○研究年度 平成30年度

(研究期間) 平成29年度～平成31年度(3年間)

1. 研究目的

本研究課題の目的は、次の2点である。①大学ウェブサイトのアクセスログを解析し効果的なウェブサイト作成・運用のための指針を得ること。②学生と教職員が協働してSNSを利用した広報活動を行う際の運営上の配慮について検討する。

本プロジェクト研究の1年目において、本学の認知度調査を県内の各年齢層を対象に実施した。その結果、茨城県全域において本学の認知度が高校生を除く全ての年代において低いことが明らかとなった。本県唯一の公立大学であるにもかかわらず、県民の過半数が本学の存在を知らない可能性があることを示す結果であった。このように認知度が低い要因として、本学の情報発信の乏しさが考えられる。現代は、あらゆる情報の発信・入手がウェブサイトを通じてなされている。これは、大学においても同様であり、大学広報においても、データに基づいた戦略的なウェブサイト構築が重要であるとの指摘もなされている。そこで、本研究では、本学公式ウェブサイトのアクセス解析を行い、その結果に基づいた効果的なウェブサイトのあり方について考察する。また、本学で広報に利用しているSNSについても解析を行い、比較したい。

また、近年はSNSを利用した広報活動も盛んであり、大多数の大学はSNSを利用した広報活動を展開している。高校生や大学生といった若い世代はSNSの利用が盛んであることから、本学のステークホルダーである高校生に最も近い存在である大学生と協働して広報活動を行うことが効果的であると考えられた。そこで本学では、平成30年度に「学生広報支援委員」を創設し、大学広報に協力してくれる学生と広報活動を行える体制を整えた。しかしながら、SNS利用については、不適切投稿などのリスクも伴うため、運営上配慮しなければならない点がある。本研究では、大学生のSNS利用に関する意識について調査を行い、SNS広報を運営する上で配慮を要する点について検討することを目的とする。

2. 研究方法

【研究1】大学ウェブサイトおよび大学SNSのアクセスログの解析

①目的 茨城県立医療大学の公式ウェブサイトのアクセスログを解析し、効果的なウェブサイト作成・運用のための指針を得る。

②方法 解析対象:2018年4月1日～9月30日における本学公式ウェブサイトのアクセスログ
2019年2月7日～13日の本学Facebookページ及びTwitterの簡易アクセスログ

【研究2】学生と教職員協同による広報活動における運営上の配慮に関する検討

①目的 学生と教職員が協働して広報活動を行う際の運営上の配慮について検討する。

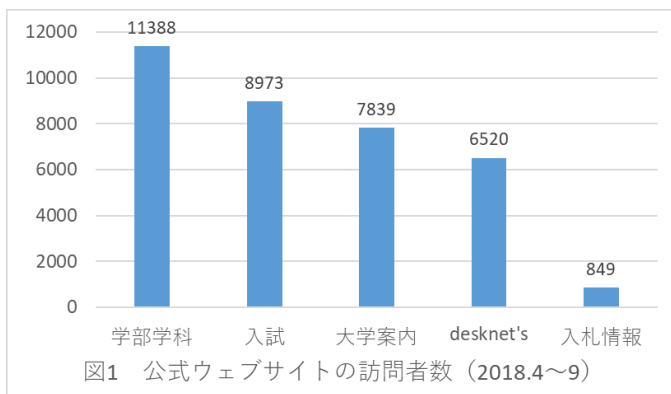
②方法 調査対象:大学の広報活動に関心のある大学生4名及び一般の大学生24名。

調査内容:(1)SNSトラブル経験、(2)セキュリティリスク行動、(3)SNS利用に際して重視すること

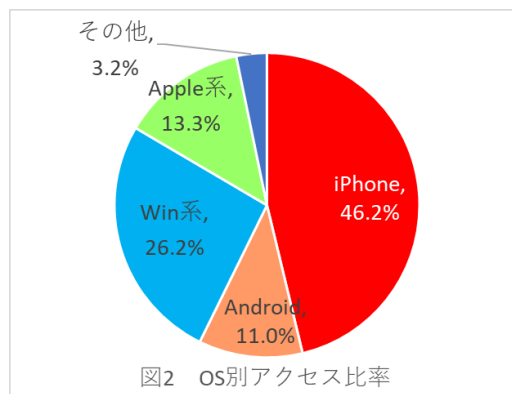
3. 研究結果

【研究1】

(1) 公式ウェブサイトのアクセス解析の結果(2018年4～9月)



(2) OS別アクセス比率



(3) Facebookページ及びtwitterの入試情報に関する投稿のインプレッション数(2019年2月7日～13日)

Facebookページ・・・104

Twitter・・・984

(1)よりウェブサイトでは、入試に関するページのアクセスは1ヶ月平均1500人であったのに対し、(3)のtwitterでは1週間(実質的には3日)で約1000件のインプレッション(表示数)を得た。厳密に比較することはできないが、情報を発信する速度と範囲においてSNSが有効であることが示された。また、本学ウェブサイトの利用者の過半数はスマートフォンを介してアクセスしており、スマートフォン対応のウェブサイトの早急な構築が望まれる。

【研究2】

- (1) SNSトラブル経験 全体的にトラブル経験は少なかった。5段階評定で5を回答した人がいた項目・・・「画像を勝手に保存された」「写真を乱用された」「知らない人から会いたいなどのメッセージが来た」
- (2) セキュリティリスク行動 5段階評定で平均3を超えた項目・・・「複数のサービスでパスワードが共通」「SNSで投稿する際にGPSのオンオフを気にしない」「自宅のPCにセキュリティソフトがあるかわからない」
- (3) SNS利用に際して普段重視していること 5段階評定で2以下の回答した人がいた項目・・・「悪質な誹謗中傷は犯罪となる可能性があること」「各SNSの特性を理解して使うこと」

上記(2)においては学生広報支援委員においてもリスクの高い行動を示す人もいたため、SNS利用の研修を丁寧に行うことが重要である。

4. 考察(結論)

- (1) スマートフォンからのアクセスが多く、若年者で利用が盛んなSNSは情報発信力が高いことから、スマートフォン対応のウェブサイトならびにSNSを通じた大学の広報体制が有効と考えられる。
- (2) SNSを利用する学生の中には、リスクの高い行動をする者もいるため、学生と協働による大学広報活動を行う際には、SNS利用リテラシーの研修が必要であると言える。

5. 成果の発表(学会・論文等, 予定を含む)

・佐藤純, 萬代望, 角友起, 中島修一, 塚本和己, 川野道宏, 滝澤恵美, 真田育依. 2017年度茨城県立医療大学認知度等調査報告. 茨金立医療大学紀要. (印刷中)

6. 参考文献

塚本和己, 古家宏樹, 藤田智也, 富田和秀, 武島玲子, 桜井直美, 角正美, 小林秀行, 梅澤光政, 飯塚眞喜人. 茨城県内中学生を対象とした茨城県立医療大学および各専門職の認知度と職業選択に関する意識調査. 茨城県立医療大学紀要. 2015;20:67-74

市川博, 本間学. インターネットリスクを減少させる情報リテラシー教育-SNS利用におけるリスク-. 人間生活文化研究. 2017;27:676-681